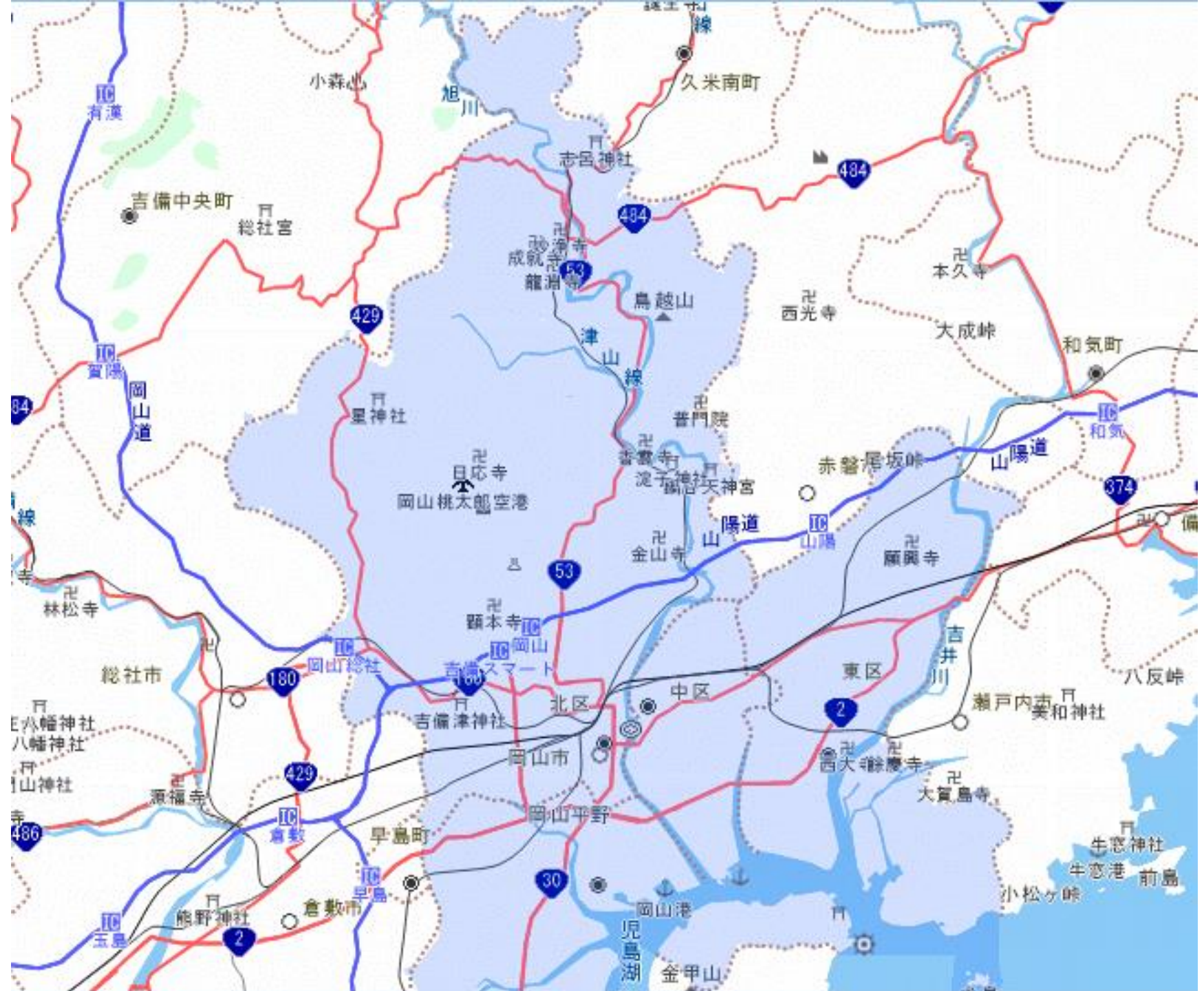
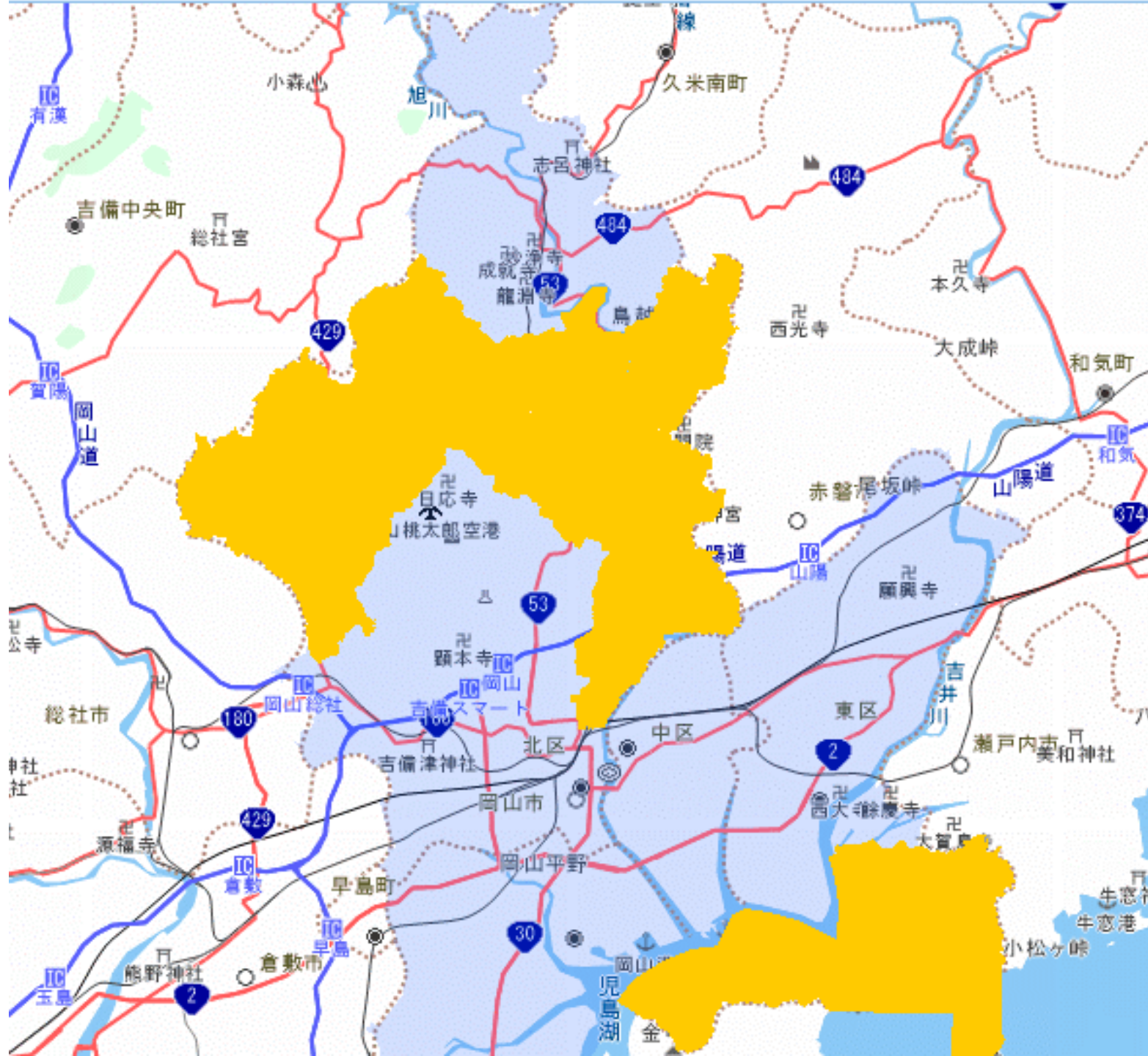


ツツガムシ病
感染推定地域
該当なし



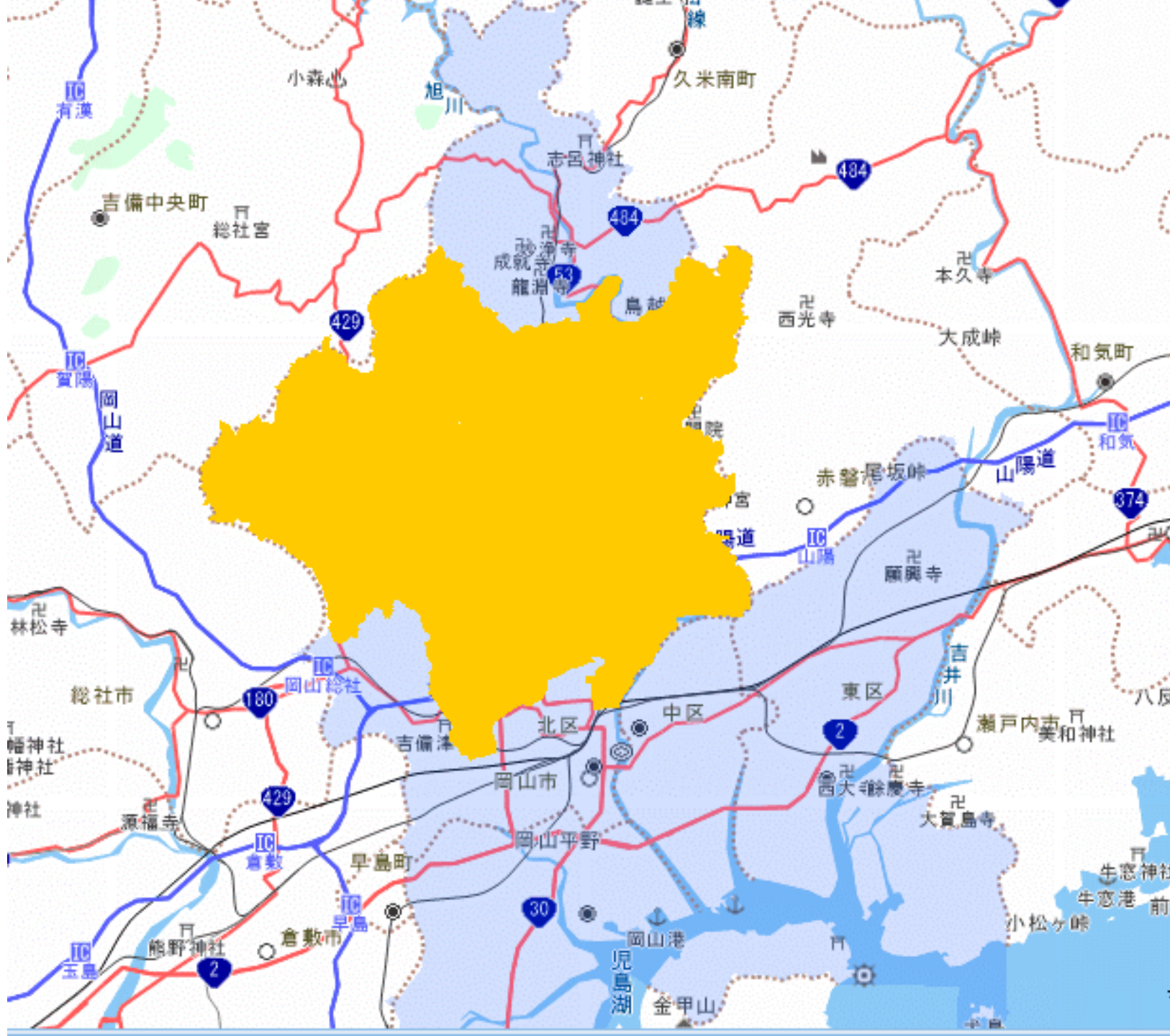
※医療機関用資料

日本紅斑熱 感染推定地域



※医療機関用資料

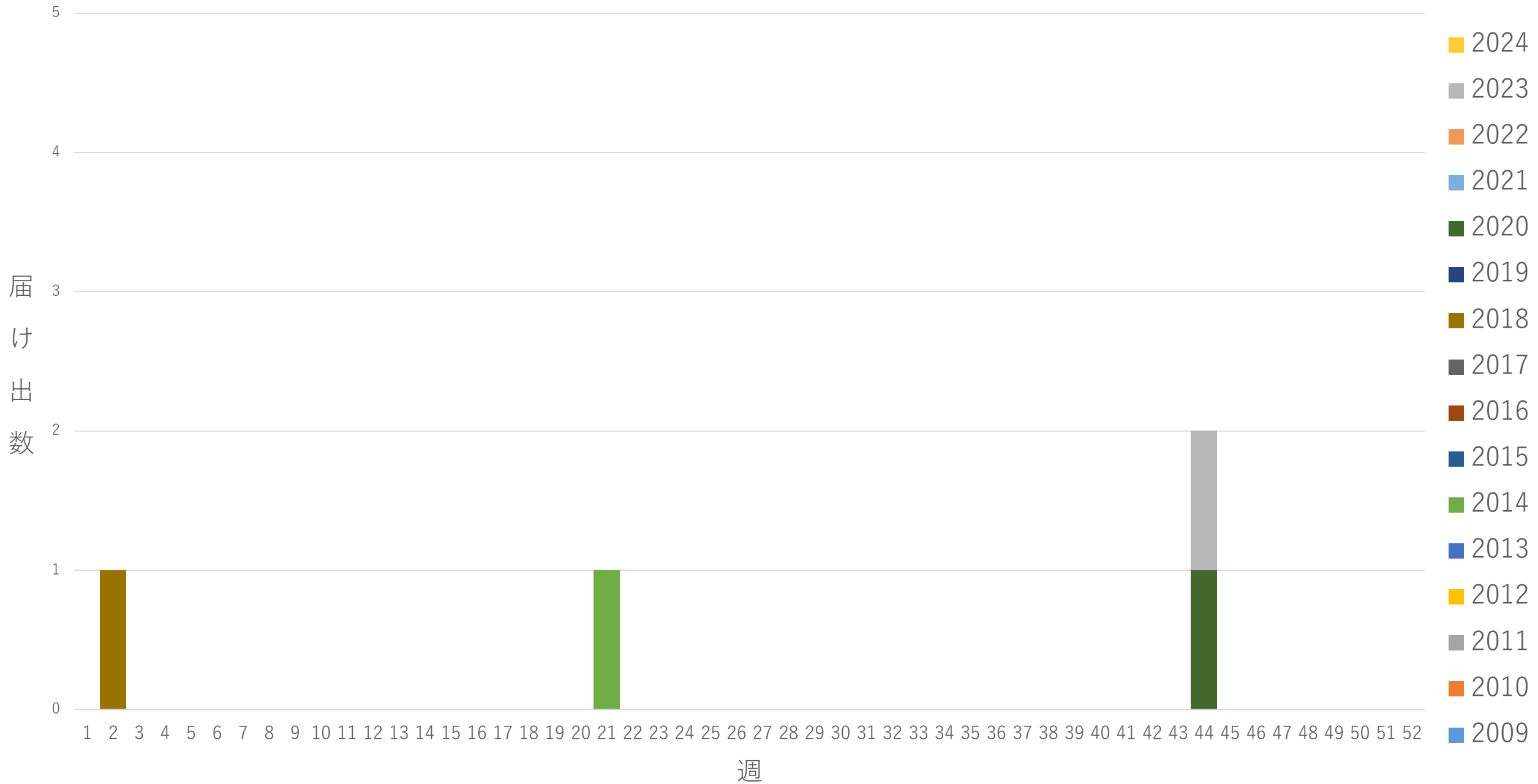
SFTS 感染推定地域



※医療機関用資料

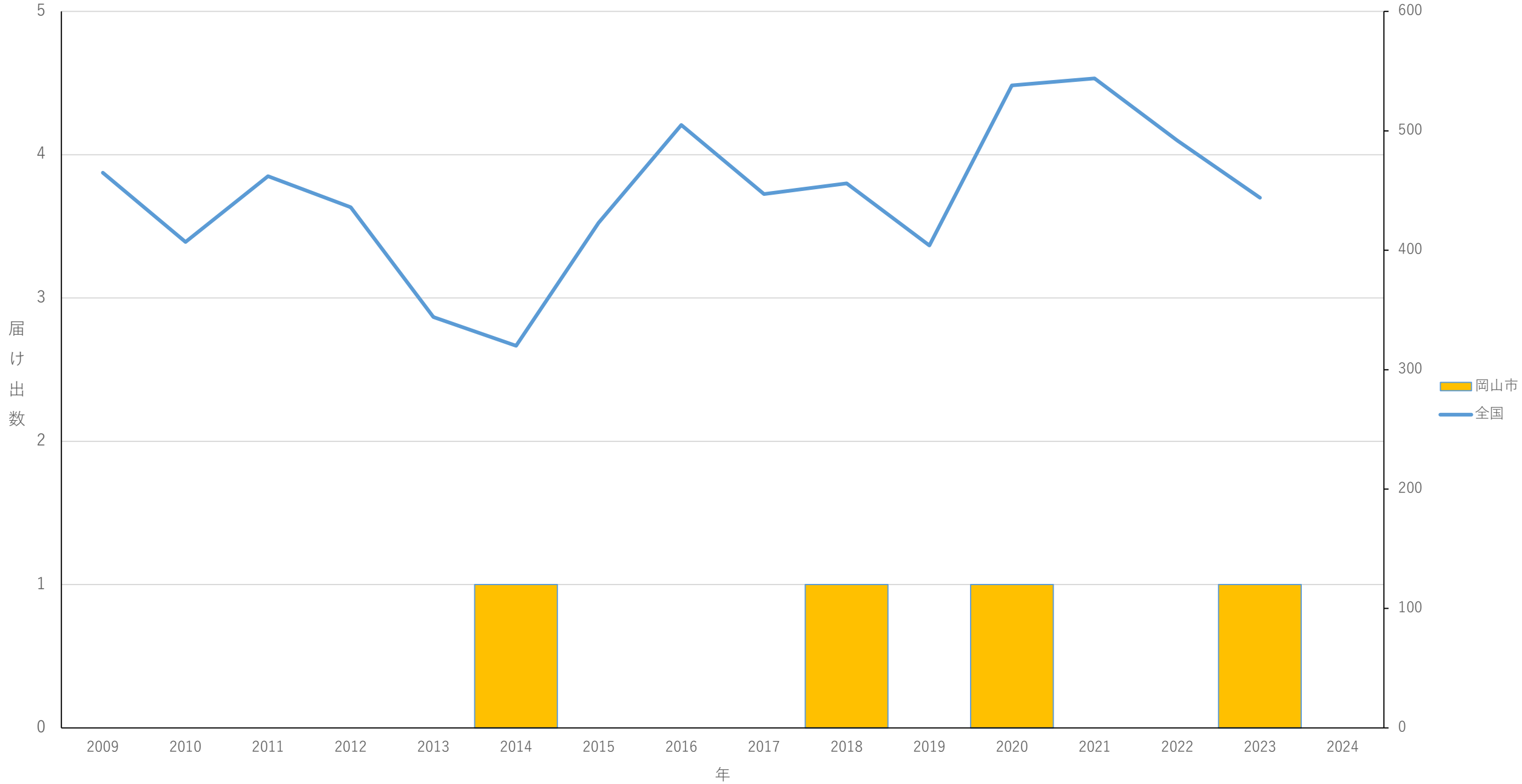
つつが虫 週別届け出数 (2009-2024) 岡山市

N=4



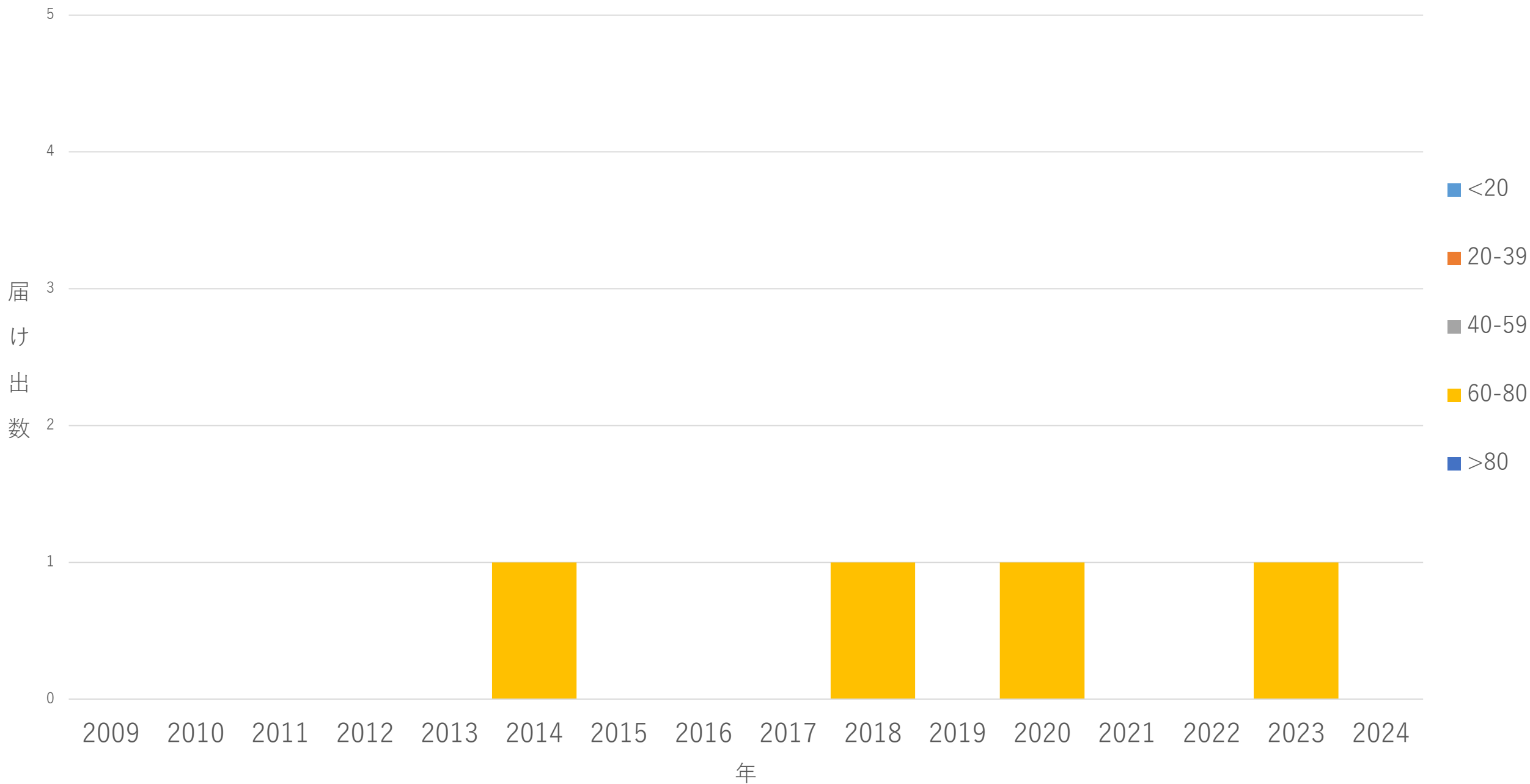
つつが虫病 年別届け出数 (全国と岡山市)

全国 N=6648
岡山市 n=4



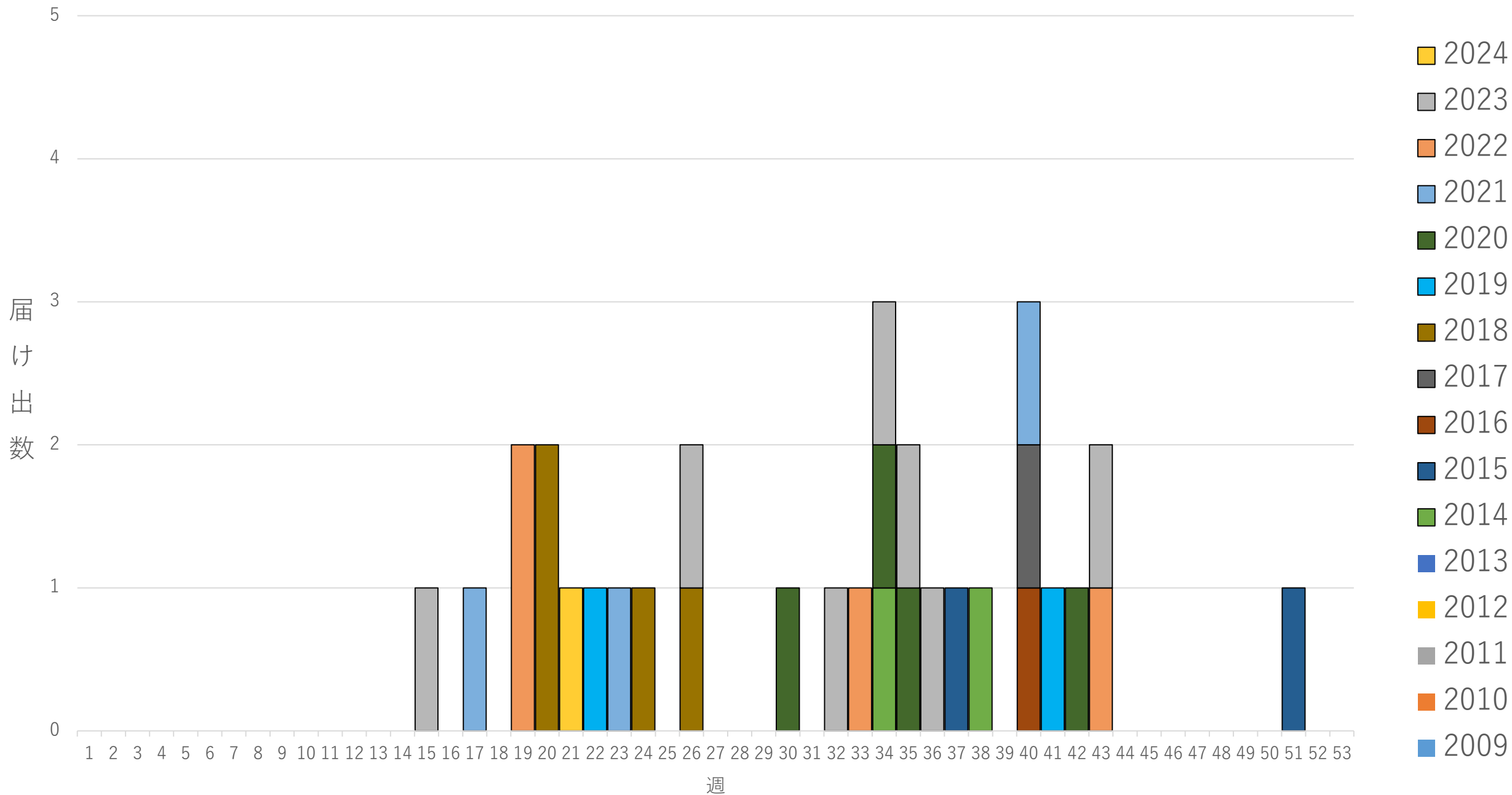
つつが虫病 年別・年齢階級別届け出数（岡山市）

N=4



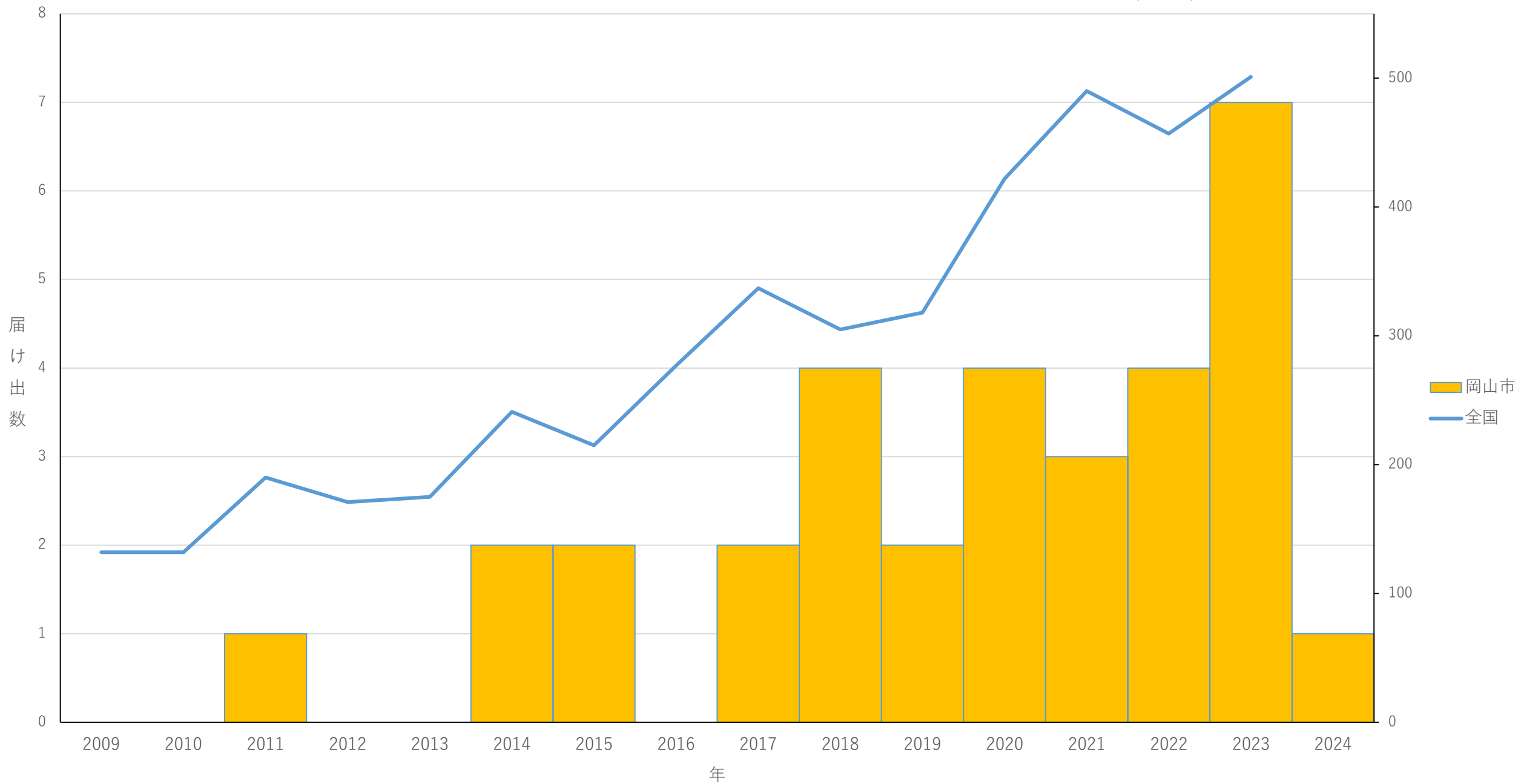
日本紅斑熱 週別届け出数 (2009-2024) 岡山市

N=32



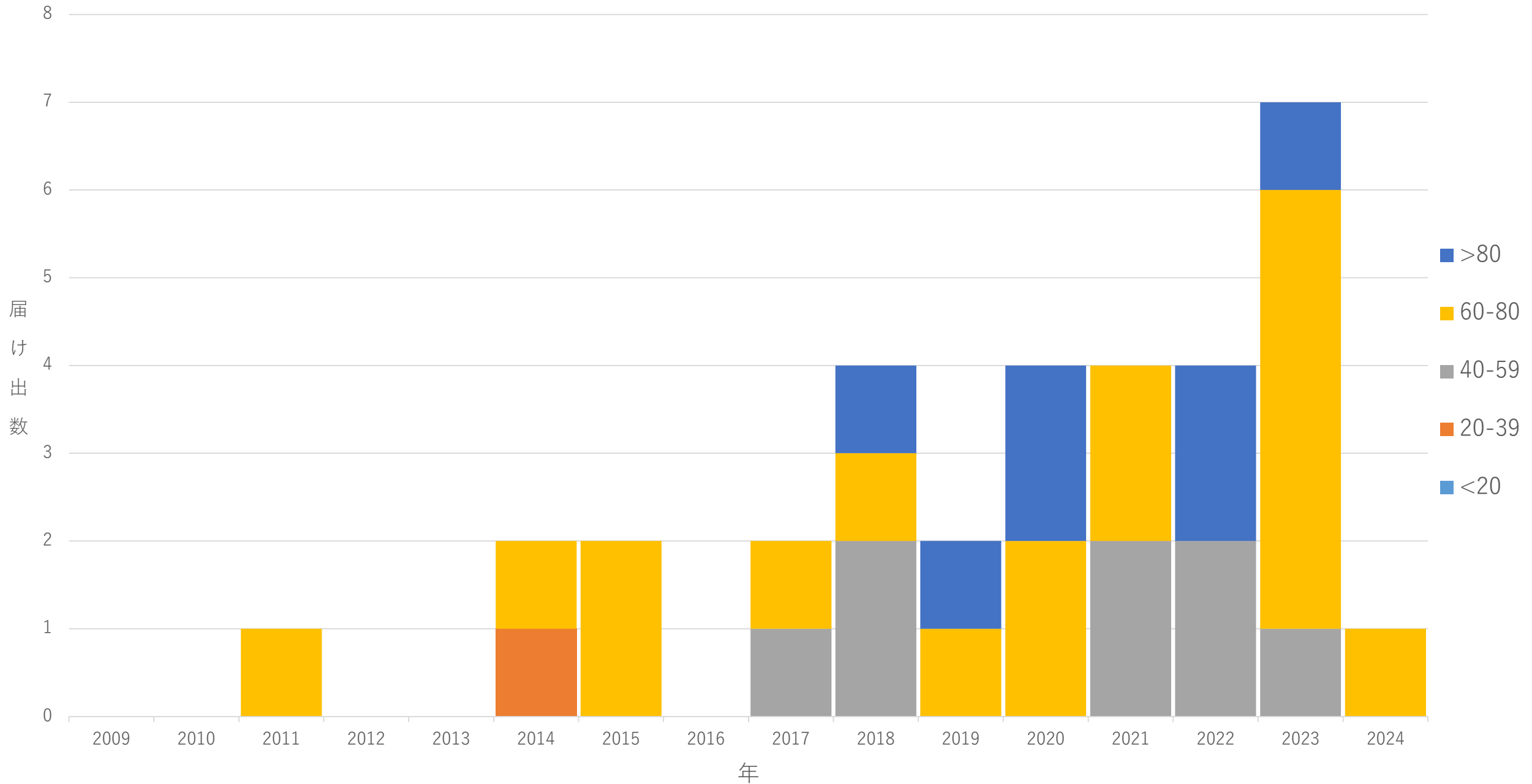
日本紅斑熱 年別届け出数 (全国と岡山市)

全国 N=4363
岡山市 n=32



日本紅斑熱 年別・年齢階級別届け出数（岡山市）

N=32



SFTS 年別届け出数 (全国と岡山市)

全国 N=937
岡山市 n=21

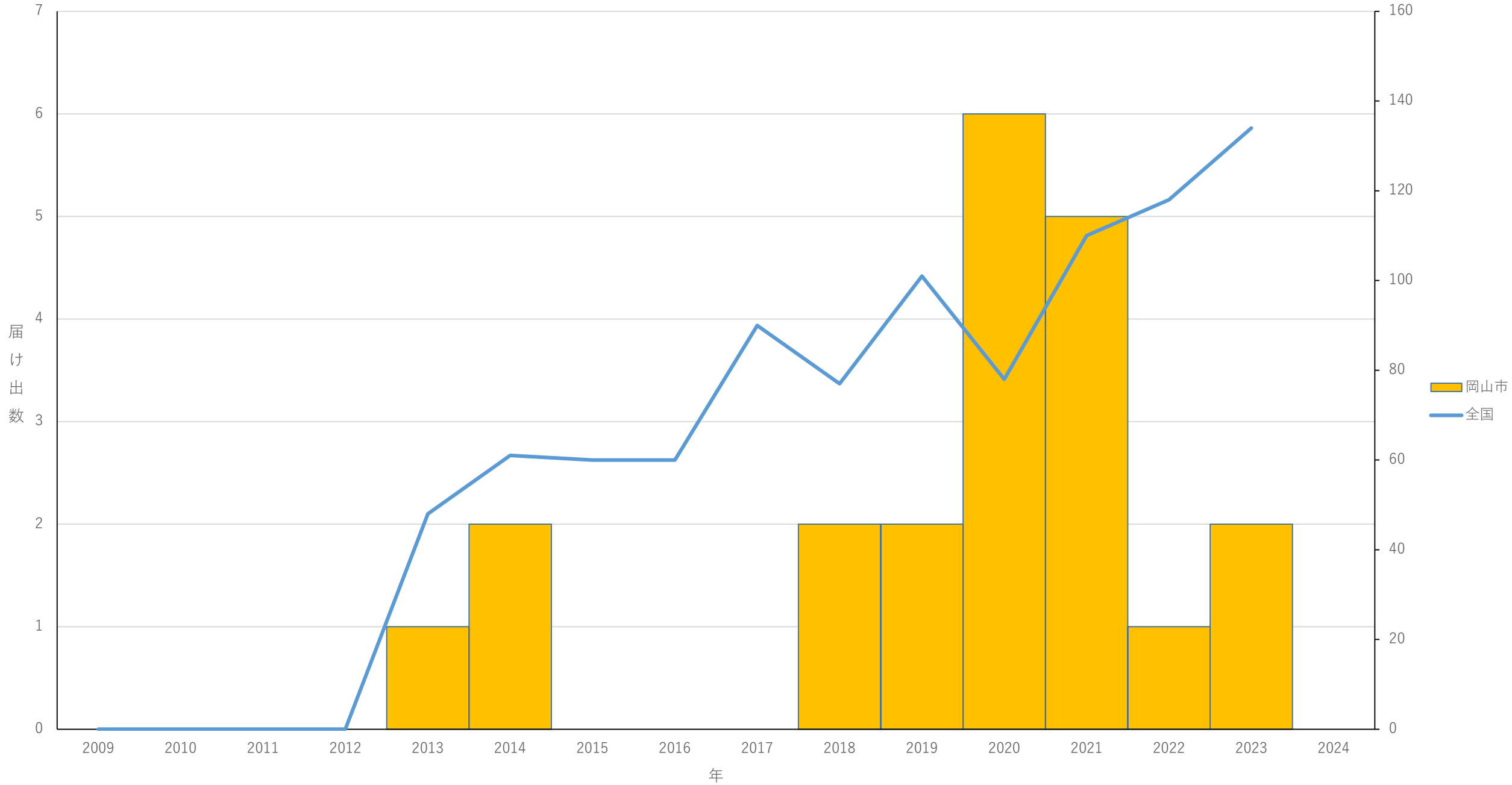
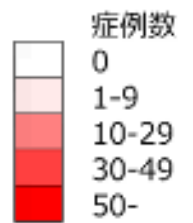
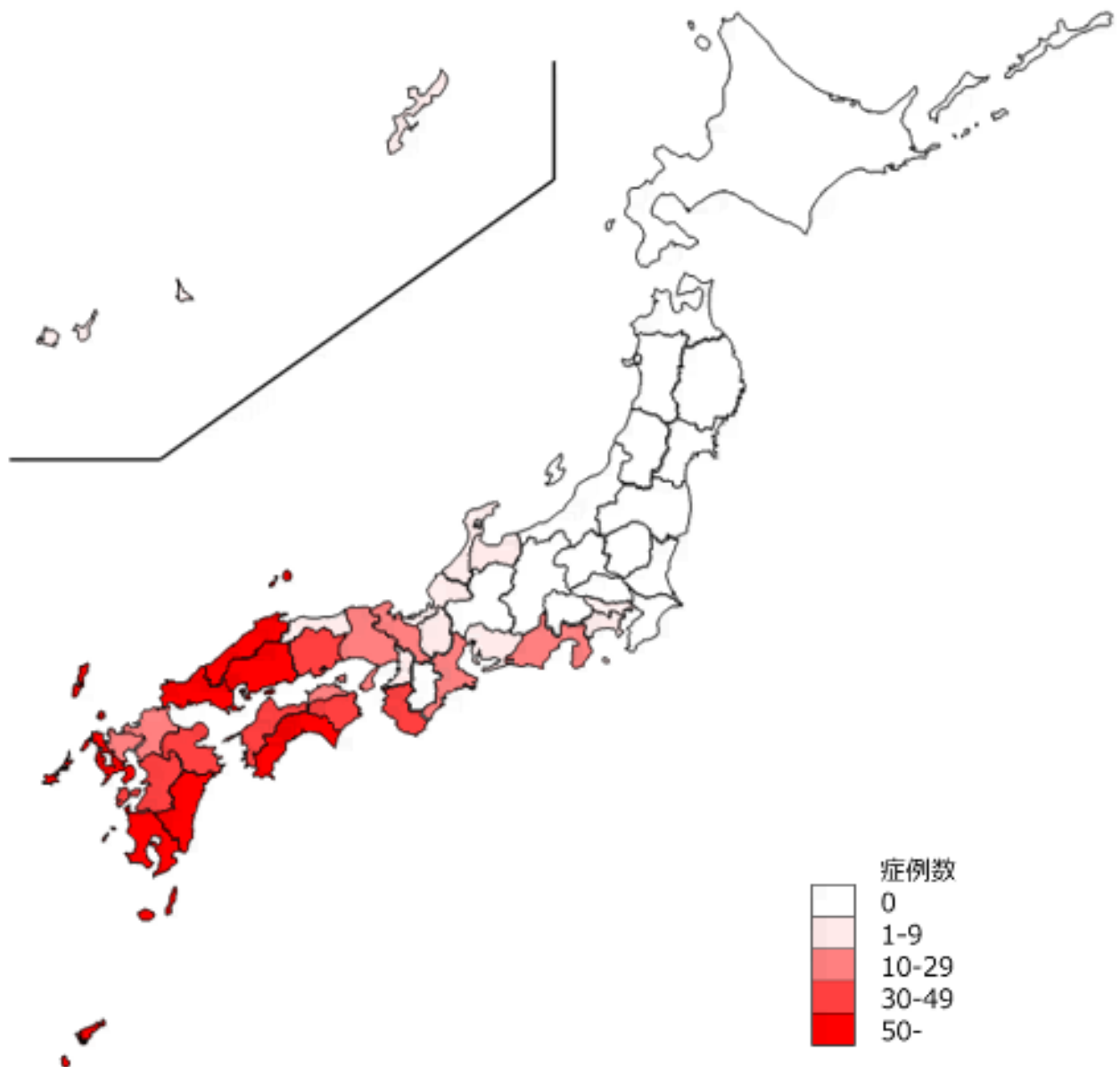


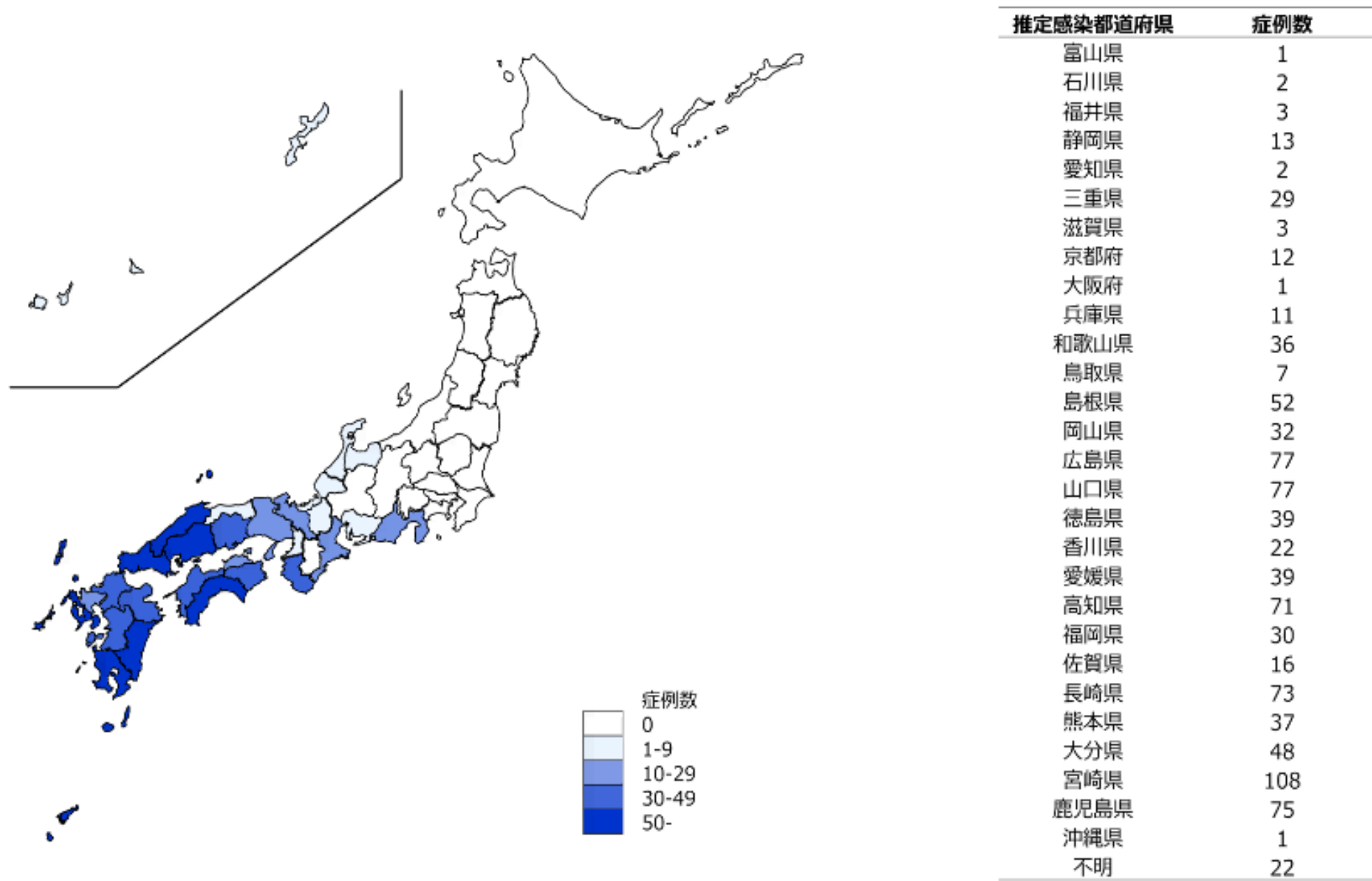
図2. SFTS届出症例の届出地域 (n=939, 2024年1月31日現在)



届出都道府県	症例数
東京都	2
神奈川県	1
富山県	1
石川県	2
福井県	3
静岡県	13
愛知県	3
三重県	28
滋賀県	1
京都府	13
大阪府	3
兵庫県	11
和歌山県	37
鳥取県	8
島根県	52
岡山県	31
広島県	83
山口県	79
徳島県	42
香川県	23
愛媛県	42
高知県	71
福岡県	28
佐賀県	17
長崎県	72
熊本県	42
大分県	47
宮崎県	109
鹿児島県	74
沖縄県	1

出典：NIID 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

図3. SFTS届出症例の**推定感染地域** (n=939, 2024年1月31日現在)



出典：NIID 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

SFTS 年別・年齢階級別届け出数（岡山市）

N=21

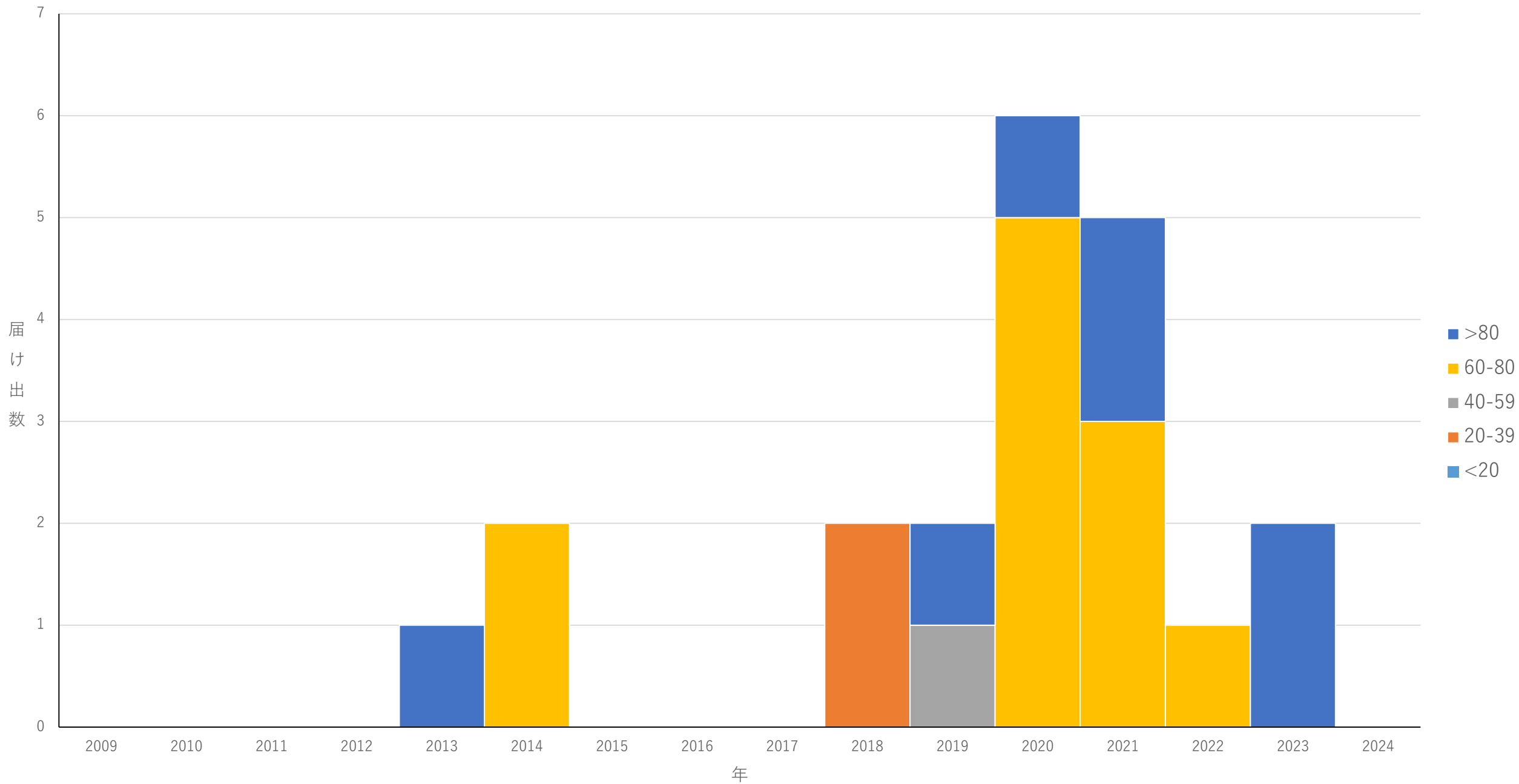


表3. 動物の診療やケア等でSFTSに感染したと推定される獣医療従事者症例
(n=11※, 2024年1月31日現在)

発病年	性別	年代（診断時）	感染地域 (推定または確定)
2018	女	40代	九州地方
	女	20代	九州地方
	男	20代	中国地方
2019	女	50代	九州地方
2020	男	30代	中国地方
2021	男	60代	中国地方
	男	60代	中部地方
	男	60代	四国地方
2022	女	50代	九州地方
	男	60代	中国地方
2023	女	30代	中国地方

※届出開始日（2013年3月4日）以前に発病した症例を除く

出典：NIID 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

表1. 基本情報（2013年3月4日以降届出分、2024年1月31日現在）

		生存例	死亡例	合計
報告数		835	104	939
性別	男	416	56	472
	女	419	48	467
年齢	中央値	74.0 歳	80.5 歳	75.0 歳
	~20代	11	0	11
	30代	13	0	13
	40代	19	0	19
	50代	54	3	57
	60代	190	13	203
	70代	294	34	328
	80代	223	44	267
	90代~	31	10	41

注) 死亡数は感染症発生動向調査への届出時まで死亡し、死亡例として届出された症例の集計であり、届出後に死亡した症例数は含んでいない。正確な死亡数及び届出症例における致命率はより高い可能性がある。また自治体による公表情報とは異なる場合がある。

なお、感染症発生動向調査とは別に、届出が求められる前に発病した4例（すべて死亡例）が把握されているが、本報告には含まれない。